The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	味覚語彙とその感覚表現への転用に見るベトナム語と日本語の違い
Author(s)	ファン, ティ ミー ロアン
Citation	言語文化研究. 2018, 44, p. 127-147
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/68017
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

味覚語彙とその感覚表現への転用に見るベトナム語と日本語の違い

ファン・ティ・ミー・ロアン

TỪ CHỈ VỊ VÀ NHỮNG KHÁC BIỆT Ở CÁC TỪ CHUYỂN NGHĨA TRONG TIẾNG VIỆT VÀ TIẾNG NHẬT

PHAN THI MY LOAN

Tóm tắt: Mục đích của bài nghiên cứu này là tìm hiểu tất cả các nghĩa chuyển của bốn nhóm từ chỉ vị bao gồm vị ngọt, vị mặn, vị chua và vị đắng trong tiếng Việt. Ở từng nhóm từ chỉ vị này, tác giả so sánh với các từ chỉ vị tương ứng trong tiếng Nhật với mong muốn làm rõ những khác biệt giữa các từ chỉ vị trong tiếng Việt và tiếng Nhật. Phần I là các nghĩa chuyển của nhóm từ chỉ vị NGỌT. Phần II là các nghĩa chuyển của nhóm từ chỉ vị MẶN. Phần III là các nghĩa chuyển của nhóm từ chỉ vị CHUA, và phần IV là các nghĩa chuyển của nhóm từ chỉ vị ĐẮNG.

キーワード：味覚語彙，ベトナム語の味覚表現，感覚表現への転用

目　次

1．はじめに
1.1　研究目的
1.2　先行研究
2．ベトナム語における味覚語彙
2.1　味の定義
2.2　味を表す表現と味覚語彙
I.　Ngọt 甘い
I.1　Ngọt の定義
I.2　Ngọt とその感覚表現への転用の方向性
II.　Mặn からい（塩気）
II.1　Mặn の定義
II.2　Mặn とその感覚表現への転用の方向性
III.　Chua 酸っぱい
III.1　Chua の定義
III.2　Chua とその感覚表現への転用の方向性
IV.　Đắng 苦い
IV.1　Đắng の定義
IV.2　Đắng とその感覚表現への転用の方向性
3．結論
参考文献

1．はじめに

認知とは人間が日常生活の中で絶えず行っている意味にかかわる営みのことである。目覚ましの音で起きなければならないことを知る。窓を開けると，空模様から今日の天気を知る。朝食時に食欲がないと，体調が悪いことを知る。こういうことはすべて認知の営みである。しかし人間の認知の営みは，言語を媒介として行われることが最も多いのである。（日景 2009: 1）

また認知意味論では，思考ないしはことばと身体性の関連を重視している。人間の概念体系は身体的な経験に由来するものであり，それとの関連で意味を生み出すものである。（日景 2009: 1–2）

私たちは日常生活であらゆる場面において五感の感覚表現を通して自分が感じ取ったり考えたりすることを表現している。その中でも味覚語彙は遥かに豊かで，味を表すのみならず，他の感覚表現にまで転用される。本論考ではベトナム語における味覚語彙の意味的特徴を多くの用例とともに分析し，それがどのような過程を経て感覚表現へ転用されていくのか，その転用に必然性があるのかないのか，などを通してベトナム語と日本語の違いを探り，ベトナム人と日本人の感受性の差をも探ってみたいと思う。

1.1　研究目的

ベトナム語における味の主役を担うと思われる 4 種類[1)]の味覚語彙（Ngọt 甘い，Mặn からい（塩気），Chua 酸っぱい，Đắng 苦い）について，その転用表現を考察した上で，次の 2 点を明らかにする。

第一に，五感の感覚表現の分野内で，ベトナム人が用いる味の主役を担うと思われる 4 種類の味覚語彙の意味的な特徴について述べる。

第二に，上で言及した 4 種類の味覚語彙から転用される他の感覚における比喩表現の意味的方向性について考察する。

1.2　先行研究

宮本（2013）は五感に関わる比喩転用の方向性についての先行研究を次のようにまとめている。Williams（1976）は視覚，聴覚，嗅覚，味覚，触覚の 5 つの感覚分野を表す形容詞の間に，

1）Nguyễn（2014）によれば，ベトナム人は普段，主として次の 7 種類の味覚を感じ取るという。それは Chua（酸っぱい），Ngọt（甘い），Mặn（からい（塩気）），Đắng（苦い），Cay（辛い），Chát（渋い），Bùi（香ばしい）である。一方で，日本人の基本となる味覚として知られるのは，甘味，塩味，酸味，苦味，旨味の五味があると主張する（瀬戸 編著 2003: 11）。そのうち，旨味はいわば野菜や肉等を煮込んだ汁の甘味を指すことが一般的であり，ベトナム人にとっては Ngọt（甘い）に Ngon（旨い）が加わった感覚と言える。本論考ではベトナム語と日本語の味覚語彙の詳細な比較のため，Ngọt（甘い），Mặn（からい（塩気）），Chua（酸っぱい）と Đắng（苦い）の 4 つに絞ることとする。また，各味覚語彙の意味を考察する際，I.2 で考察する ngọt lịm, ngọt lự 等のように，その「基本となる味覚語彙 + α」の形で複合語（或いは複音節語）を為すような場合も含めて考えるが，III.2 と IV.2 で述べられるように chua cay（酸っぱい + 辛い）や đắng cay（苦い + 辛い）等の 2 つの味覚語彙の組み合わせによって為されるような場合は総合的な意味合いを持つため，本論考では考察対象外とする。

ある感覚を表すのに別の感覚分野に属する語を比喩的に用いる「共感覚的比喩（synaesthetic metaphor）」の比喩方向は一方向であることを指摘した。味覚に関して言えば，触覚からの転用があっても味覚から触覚に転用する比喩はなく，味覚から嗅覚，聴覚に比喩転用があるが逆の方向がないという法則を示している。Williams（1976）の指摘した比喩転用の方向性はその後多くの研究者によって再検討が行われている。その中に，国広（1989），山口（2003），瀬戸（2003），楠見（2005）などがいる。国広（1989）は日本語の用例を示しながら，Williams（1976）の指摘した法則に「味覚→視覚」，「触覚→嗅覚」を追加した。山口（2003）は「丸い味」や「四角い味」などを取り上げ，視覚から味覚に転用していることがあることを証明している。瀬戸（2003）は，一方向に従わない例が非常に多くあり，その中に視覚から味覚に転用される用例が最も多くあることを示した。楠見（2005）は，共感覚的比喩表現の心理実験に基づく評定データとインターネット上の頻度データを対応させて，Williams（1976）などによる比喩転用の方向性の再検討を行った。感覚形容詞の共感覚的な修飾方向には，逆方向の用例もあるが，順方向の共感覚的修飾語句は逆方向のそれよりもはるかに頻度が高く，受け手に理解される可能性も高いということを指摘した。（宮本 2013: 126−127）

ベトナム人研究者で，味覚に言及しているのはĐào（1973），Ngô（2013），Nguyễn（2013），Nguyễn（2014）などである。Đào（1973）はNgọt（甘い）の対語はChua（酸っぱい），Đắng（苦い），Mặn（からい（塩気））であると述べ，Ngọtの嗅覚，視覚とその他感覚への転用を簡単に解説している。Ngô（2013）は現代中国語における味覚語彙及び嗅覚語彙の構造特性，意味及び文化的含意を考察した。Nguyễn（2013）は，ベトナム語におけるNgọt（甘い）と英語におけるsweetとそれに相当する語彙や表現の比較研究を行った。また，Nguyễn（2014）は，ベトナム語における味を表す語彙の比喩転用の方向性を考察した。

本論考では上のNguyễn（2014）の考察結果を再検討し，ベトナム語と日本語における4グループの味覚語彙の感覚表現への転用に見る違いを考察してみたい。更に，各味覚語彙の考察で，当該味覚語彙がベトナム語においてプラスの評価的意味で用いられることが多いのか，それともマイナスの評価的意味で用いられることが多いのかなど味覚語彙の各分野への転用を通してそれぞれの民族の価値観について触れてみたい。なお，Nguyễn（2014）はベトナム語における味覚語彙とその感覚表現への転用は1）聴覚，2）嗅覚，3）視覚，4）触覚，5）精神的感受性（具体的に，生活上の感受性，感情的表現と性格的表現）と6）行動的表現，に分類したが，本論考では日本語との比較をも目指すため，上記5）精神的感受性を更に細かく分けることにする。その際，瀬戸（編著 2003: 204）を参考にする。

2．ベトナム語における味覚語彙

2.1　味の定義

本論考はベトナム語と日本語における「味」をベースに考察するものであるが，「味」について述べる時，「ニオイ」を無視することはできない。なぜなら，「（省略）そこで，改めて普段食べ物に対して用いている味という表現の意味を考えてみると，においを味と勘違いしているケースは非常に多い。イチゴ味の飴，メロン味の飴という時の味についても，違う味の飴だという表現をするが，実際には甘さや酸っぱさという味の部分に大きな差はなく，イチゴ味の飴をイチゴ味たらしめているのはイチゴを特徴付けているイチゴフレーバーのにおいによる部分が大きいのである。また，においの質の表現において，「甘いにおい」「酸っぱいにおい」といった味の質を表現する用語が用いられるのも，においの質を味のように感じている事を示していると思われる。このように，日常的ににおいを味と勘違いする事が，風味に対するにおいの貢献を味ほど強く実感する事ができない理由として考えられる。においも風味に大きく貢献しているにも関わらず，言わばその成果を味に横取りされているのである。においが味のように錯覚されてしまうのはなぜのだろうか。その理由として考えられるのが，味とにおいの間に強い結びつきがあるからなのではないかということである。」（日下部，和田 2011: 75）

ベトナム語においても，vị（味）を考察する際，mùi（におい）（場合によってはmùi vị又はhương vị（風味）をも含む）を無視することはできまい。元は，vị は漢越語で，mùi は古漢越語に属し，どちらも「味」を表す語であるが，現代ベトナム語では，vị は主として「味」の意で，mùi は「におい」の意味で用いられ，合体させたmùi vị は前者と同じ「味」の意味で用いられることが多い[2)]。

ベトナム語では，「味」（vị, mùi vị）は次のように定義されている。*①舌で感じ取れる事物の属性。例 : Chanh có vị chua（レモンは酸味がある），②漢方医学の薬に含まれる薬剤の一つ一つを指す語。例 : Thay vài vị trong thang thuốc（薬剤のいくつかの成分を取り換える）。*（Viện ngôn ngữ học 2002: 1114, 649）

一方，日本語「味」の定義は次のとおりである。*①飲食物が舌の味覚神経に触れた時におこる感覚。「うすい__」「塩__」「__を見る」，②体験によって知った感じ。「貧乏の__を知る」，③（かみしめて知るような）物事のおもむき。面白み。（省略）「__のある絵」，④（一風かわって）快いさま。気のきいているさま。おつ。（省略）「__な趣向があったもの」「__なことを言う」「__な気持になる」，⑤手ぎわのよいこと（省略）「親父が手前を__にして」，⑥相場の動きぐあい「場__」。*（新村出 編 2008: 44–45）

以上の両言語における定義を比較してみると，ベトナム語における定義のうち，定義①は日

2）Mùi vị は「vị」（味）（一般的に言う）と定義される。（Viện ngôn ngữ học 2002: 649）

本語の定義①に相当するが，定義②は日本語には全くない。これは日本では漢方医学がベトナムほど定着しなかったからであろう。

一方，逆に日本語の定義について見れば定義②だけはベトナム語とやや共通しているように見える。定義②で用いられる「味」をベトナム語に翻訳すれば，「なめる」等の動詞を用いて「Nếm mùi túng thiếu」等となるであろう。この訳で用いられる mùi は「におい」ではなく，「味」を指す語である。定義③④⑤⑥はベトナム語とは全く異なる。定義③の例をベトナム語に翻訳すれば，「味のある絵」＝ Bức tranh càng nhìn càng thấy hấp dẫn/thi vị/thú vị（見れば見るほど魅了される / 詩的な味わいが出てくる / 面白味を感じられる）。定義④の例は「味なことを言う」＝ Nói điều hài hước/ hóm hỉnh（ユーモアのある / 滑稽な）。定義⑤の例は「親父が手前を味にして」＝ Bố tôi luyện tay nghề cho thật nhanh nhẹn（素早く，器用な / 巧みに，繊細な，得意な / 上手な）。定義⑥の例は「場味」＝ Tình hình thị trường（市況）等に言い換える。

このように，日本語における「味」の用いられる領域はベトナム語における vị および mùi vị より遥かに広く，「舌で感じ取れる事物の属性」のみならず，そこから*性格上での体験，物事のおもむき*等の領域における「味」にまで用いられるようになっているため，下で考察する味覚語彙とその比喩表現もベトナム語より遥かに豊かであることが予測できる。

2.2 味を表す表現と味覚語彙

ベトナム語における味覚語彙とその感覚表現への比喩転用を考察するために，各当該味覚語彙のベトナム語と日本語における定義をベトナム語辞典（Viện ngôn ngữ học, 2002, 以下「資料 A」）及び『広辞苑　第六版』（新村　出 編，2008, 以下「資料 B」）に掲載される定義を登録し，ベトナム語における定義を中心に，まず両言語に共通する定義に当てはまる語彙及び表現に見る両言語の間の違いを分析した上で，他の感覚表現への転用に見る違いを考察していく。ベトナム語における各定義とそれに当てはまる語彙及び表現に関する例は日本語に翻訳しておく。当該辞典の他に，Nguyễn（2014）に掲載される例（以下「Nguyễn」），Vietnamese Corpus[3]（Trung Tâm Từ Điển Học（The Lexicography Centre, 省略名称 VIETLEX），以下「Vietlex」）と詳解ベトナム語辞典（川本邦衛 編 2013，以下「川本 編」）の例も用いる。

I. Ngọt 甘い

I.1 Ngọt の定義

Ngọt はベトナム語辞典で次のように定義される（用例は一部省略）。*①砂糖，蜜のような味を有する。例 : Ngọt như mía lùi（焼きサトウキビのように甘い）。②科学調味料のような旨味を有する。例 : Cơm dẻo canh ngọt（もっちりとした御飯に甘味のあるスープ）。③人の心を乱すほ*

3）VIETLEX が構築した膨大なベトナム語コーパスである。

ど耳に心地よく受け入れやすい（声又は言葉）。例 : Nói ngọt（甘い言葉で語りかける）。④耳に心地が良い（音）。例 : Đàn ngọt hát hay（甘い音色，心地良い声で弾き語りをする）。⑤（形容詞の後に用いられることが多く）（包丁，ナイフ等が）非常に鋭くよく切れる或いは（寒さが）身に沁みる。例 : Dao sắc ngọt（スパッとよく切れる包丁），Rét ngọt（身を切る寒さ）。（資料 A: 687）

一方，日本語では，「甘い」は次のように定義される（用例は一部省略）。*①砂糖・あめなどの味がするさま。「＿・い物が好き」。②塩気が少ない。「＿・い味噌」。③（甘味は人に快く受け入れられることから）受け入れて楽しく気持良い。甘美で心とろける思いである。「＿・いメロディー」「＿・い言葉にだまされる」「＿・い新婚時代」。④不足があっても認めてくれ，厳しく言わないので，接して楽である。処置がゆるやかである。「＿・い点をつける」「生徒に＿・い先生」「人に厳しく，自分に＿・い」。⑤事を処理するのに考えや力が不十分である。また，そのために事にうまく適合しない。「相手を＿・く見る」「詰めが＿・い」。⑥ゆるく，締りがない。「ねじが＿・くなる」。⑦株価などがやや安い。「＿・い相場」。*（資料 B: 78）

以上の両言語の定義を比較してみると，ベトナム語における Ngọt の定義のうち，定義①は日本語の定義①に相当し，物理的な意味である。ベトナム語の定義②で使われる ngọt も物理的意味であるが，おそらくスープに入っている具や野菜からできている甘さなので日本語で表す場合は「甘い」よりも「出汁のきいた味」つまり「旨味」であろう。定義③と④は日本語の定義③に似ており，もしも日本語の定義③にある用例をベトナム語に翻訳してみれば次のようになるであろう。「甘いメロディー」（Giai điệu ngọt ngào），「甘い言葉にだまされる」（Bị dụ bởi lời đường mật[4]），「甘い新婚時代」（Khoảng thời gian vợ chồng son ngọt ngào）。定義⑤は日本語とは共通せず，「Dao sắc ngọt」は「スパッとよく切れる包丁」，「Rét ngọt」は「スパッと身を切るような寒さ」等と翻訳されるであろう。ここで注目したいのは，ベトナム語では，包丁等の「切れ味が良いこと」に用いるのに，日本語では全く反対の意味になってしまうことである。日本語では「刃が甘い包丁やのこりぎなど，刃物の切れ味の鈍さを表すのに，「切れが甘い」という。」（瀬戸 編著 2003: 196）つまり，「切れ味が悪い」ことになる。上の定義⑥に当たるのだろうか。

一方，日本語の定義②「塩気が少ない。「甘い味噌」」で使われる「甘い」は「からさ控え目の」味噌といった解釈ができるかと思う。この場合，ベトナム語では ngọt は用いられず，lạt 又は nhạt（どちらも「味が薄い」の意）を用いる。しかし日本語の「甘い」は「薄味」ではなく「味は濃いが塩気より甘味がまさっている」意であり，正確ではない。定義④はベトナム語では用いられない。「甘い点をつける」「生徒に甘い先生」「人に厳しく，自分に甘い」はベトナム語ではそれぞれ「Chấm・nương・tay（点をつける・優しく扱う（手心を加える）・手）」，「Thầy giáo・dễ dãi・với・học sinh（先生・人当たりが柔らかな（寛容な，寛大な）・に・生徒）」，「Khó

4）厳密に訳せば，「糖蜜のことばに誘われる」となる。

khăn・với・người・khác, dễ dãi・với・chính mình（厳しい・に・人・他・優しく扱う・に・自分自身）」等に言い換えられる。定義⑤もベトナム語と共通せず，「相手を甘く見る」「詰めが甘い」の例はそれぞれベトナム語で「Chưa・đánh giá・đúng・đối tác（まだ～ない（未完了）・評価する・厳密に・相手）」，「Khâu・cuối・làm・chưa・chặt（段階（又は工程）・最後・する・まだ～ない（未完了）・厳密）への言い換えが可能であろう。つまり，「厳密でない」状態を表す。定義⑥もベトナム語と共通せず，「ねじが甘くなる」はベトナム語では「Vít（ốc）・bị・lỏng（ねじ・（喜ばしくないことに使う）受身形・ゆるい）又は Vít（ốc）・không・chặt（ねじ・～ない（非定型）・きつい」に言い換えられる。上の刃物の「切れが甘い」もこの項に入るであろう。定義⑦も同様にベトナム語と共通せず，「甘い相場」は「Giá thị trường・hơi・thấp（rẻ）（相場・やや・安い）」に言い換える。

I.2　Ngọt とその感覚表現への転用の方向性

Nguyễn（2014）はベトナム語における Ngọt は 1）聴覚，2）嗅覚，3）視覚，4）触覚，5）精神的感受性（具体的に，生活上の感受性，感情的表現と性格的表現）と 6）行動的表現へ転用されると主張する（Nguyễn 2014: 74–79）。本論考では，上記 5）精神的感受性の下位分類を*「人の行為の様態」，「人の性格」，「事柄の様態」*と*「生活上の感受性」*により細かく分けることにした。以下で詳しく見てみたい。

I.2.1　聴覚への転用

Ngọt が聴覚へ転用される際の意味として認知されるのは，「**穏やかで，聞き易くて，人の心を和ませる声又は聴き心地の良い音**」或いは「**人を騙したり，誘惑したりするような声や言葉**」である。通常発言する行為あるいは内容を表す語（Nói（言う），xưng（称する），lời 又は lời nói（言葉），lời ru（子守唄），giọng nói（声）等）と共に用いられることが多い。

（1）***Lời ru ngọt lịm***　「***耳に心地良い子守歌***」（資料 A: 687）

（2）***Rượu nếp ngọt lự***　「***甘ったるいもち米の酒***」（資料 A: 687）

他に，giọng nói ngọt ngào（甘い声），dỗ ngọt（甘い言葉でなだめすかす），xưng… ngọt xớt（お世辞たらたらに～と呼ぶ）等の言い方もある。この意味合いは日本語でも用いられ，「甘い声」「甘い言葉に騙される」「甘いメロディー」「甘いささやき」等の用例で見られる。

I.2.2　嗅覚への転用

Ngọt が嗅覚へ転用される際の意味として認知されるのは，「**気持ちよく，快感をもたらす香 / 匂い**」である。次のような用例で見られる。

（3）Rồi mẹ với con nhìn buổi sáng đã lên cao, nghe ***mùi*** gió chướng ***ngọt ngào***, thấy chỗ u ám như bệnh viện mà trời xanh, trời đẹp như vầy, chắc ở ngoài kia nắng nhuộm đời tươi rực rỡ.「そして，親子は高く昇った朝日を眺め，東北から吹いてくる冷たい風の***魅惑的な匂い***を吸い込んで，こんな病院のように陰気な場所でさえ，これだけ空が青く晴れているならば外はきっと日差しを浴びて輝くほど美しいに違いないと思った。」（「Một trái tim khô」–『Cánh đồng bất tận』，p. 148）

他に，mùi thơm ngọt lựng（甘くてたまらない香り / 匂い）等の言い方もある。この意味合いは日本語でも一部は共通し，「甘い香り」「甘い匂い」等の用例で見られる。

I.2.3　視覚への転用

Ngọt が視覚へ転用される際の意味として認知されるのは，「**見る人に快感をもたらす人間（特に女性）又は景色の華麗な美しさ**」である。次のような表現がよく見られる。

（4）Choáng ngợp trước ***cánh đồng muối*** có vẻ đẹp hết sức ***ngọt ngào***[5]．「***穏やか***で美しい***塩田***に圧倒される。」

（5）Nhân Valentine, nhìn lại 6 ***gương mặt nam ngọt ngào*** nhất showbiz Việt[6]．「バレンタインデーに際してベトナム芸能界のトップ 6 の***魅力的な男性***を見てみよう。」

他に，cảnh sắc ngọt ngào（穏やかな景色），nụ cười ngọt lừ（美しい笑顔），nắng vàng ngọt ngào（キラキラ癒される木漏れ日）等の言い方もある。この意味合いは僅かながら日本語でも用いられ，「甘い光景」「甘い風景」（瀬戸 編著 2003: 192）等の用例があると言う。また，日本語における「甘い」も人の美しさを表すのにも用いられるが，ベトナム語の Ngọt は女性のみの美貌を表すのと異なり，日本語では「甘いマスク」は女性を酔わせるような美男子，つまり男性のみに用いられる。

I.2.4　触覚への転用

Ngọt が触覚への比喩転用の表現としてよく知られるのは，1)「**包丁等の刃の切れ味が良い**」と 2)「**肌に沁み込むような寒さだが快い寒さ**」である。次のような表現が見られる。

（6）***Lưỡi phay*** xén ***ngọt lịm***．「***フライス盤の刃***は***よく切れる***。」（Đào 1973: 63）

（7）***Rét*** về khuya như ***ngọt sắc*** hơn, khiến cả nhà như chỉ muốn thu lu trong vỏ kén．「夜中の***寒さ***は***スパッと身を切る***ようで，皆をまるで繭の中にこもりたい気分にさせた。」（Nguyễn 2014: 76）

他に，cái rét ngọt lịm tới tận xương（骨身に沁みるようなひどい寒さ）等の言い方もある。この意味合いは日本語では「刃物の切れ味が鋭い」などのように「味」を用いて言い，包丁等の「～切れが甘い」は日本語で逆にものの状態が緩んだ状態を表す。「刃が甘い」「ネジが甘い」「ピントが甘い」「積荷の積み方が甘い」等の用例で見られる。

I.2.5　精神的感受性への転用

Ngọt が精神的感受性への転用として認知されるのは，「**人の行為の様態**」，「**人の性格**」，「**事柄の様態**」と「**生活上の感受性**」である。これには次のような表現がよく見られる。

I.2.5–a　人の行為の様態を表す

（8）Sức mạnh không tưởng của ***lời thì thầm ngọt ngào*** khi “yêu”[7]．「‘（男女が）愛し合う’際の***甘いささやき***の予想外のパワー。」

5）<https://lamchame.vn/choang-ngop-truoc-canh-dong-muoi-co-ve-dep-het-suc-ngot-ngao-1362.html>

6）<http://phunuonline.com.vn/van-hoa-giai-tri/nhan-valentine-nhin-lai-6-guong-mat-nam-ngot-ngao-nhat-showbiz-viet-93381/>

7）<http://tamsugiadinh.vn/chuyen-ay/suc-manh-cua-loi-thi-tham-ngot-ngao-khi-yeu-tsgd25585>

（9）Fan ngây ngất với ***nụ hôn ngọt lịm*** của Hà Anh Tuấn với Thanh Hằng[8]．「ファンはハー・アイン・トゥアンとタイン・ハーンとの***甘いキス***にうっとりする。」

他に，tình yêu mật ngọt（甘い恋），tình cảm ngọt ngào（甘い気持ち），cư xử ngọt ngào（穏やかな立居振る舞い）等の言い方もある。この意味合いは僅かながら日本語でも用いられ，「甘い恋」「甘いキス」等の用例で見られる。

I.2.5–b　人の性格（接する際に快感を感じるような性格）を表す

（10）***Tính cách*** thật của Song Joong Ki được tiết lộ không nhẹ nhàng, ***ngọt ngào*** như vẻ ngoài[9]．「ソン・ジュンギは見掛けほどは優しくて***穏やかな性格***の持ち主ではないと言われている。」

他に，tính cách dịu ngọt（優しい性格）等の言い方もある。この意味合いは日本語では「甘い」よりも「穏やか」や「優しい」等の形容詞が相応しいと思われる。

I.2.5–c　事柄の様態を表す

（11）Vì em, vì những ***kỷ niệm ngọt ngào*** và cả cay đắng đã có với em, vì những ngày xa cách mịt mùng trước mắt, tôi buộc phải nén đi cái phần thật nhất đang sôi réo trong con người mình．「君のため，君との間でできた***甘い想い出***と辛い想い出のため，これから遥かに離れてしまう日々のため，僕は心の中で沸騰しつつある最大の真実を抑えざるを得なかった。」（Vietlex）

（12）Điểm lại ***chiến thắng ngọt ngào*** của Arsenal trên sân Everton[10]．「エヴァートン球場でのアーセナルの***劇的な勝利***をもう一度見てみよう。」

以上の比喩転用のうち，kỷ niệm ngọt ngào は日本語でも用いられ，「甘い想い出」等と表現されるであろう。しかし，chiến thắng ngọt ngào は汗，涙など多くの苦労を重ねた末の勝利を表し，日本語では「劇的な勝利」や「文句なしの勝利」等に言い換える。日本語では「甘い勝利」は簡単に手に入る勝利という印象を与えてしまうであろう。

I.2.5–d　生活上の感受性

（13）Bao nhiêu cay đắng ***ngọt bùi***[11]．「幾多の悲しみと***喜び***。」（資料 A: 687）

この意味合いは日本語では「人生の喜び」などのように「喜び」を用いて言うのが一般的である。

I.2.6　行動的表現への転用

Ngọt が行動的表現への転用として認知されるのは，「**躊躇なく思い切ってする行為**」や「**熟練**」を表すことが多い。次のような表現が見られる。

8）<https://thethaovanhoa.vn/van-hoa-giai-tri/fan-ngay-ngat-voi-nu-hon-ngot-lim-cua-ha-anh-tuan-voi-thanh-hang-n20170808214552828.htm>

9）<http://kenh14.vn/star/tinh-cach-that-cua-song-joong-ki-duoc-tiet-lo-khong-nhe-nhang-ngot-ngao-nhu-ve-ngoai-20160324120630249.chn>

10）<http://dantri.com.vn/the-thao/diem-lai-chien-thang-ngot-ngao-cua-arsenal-tren-san-everton-20171023160542932.htm>

11）Ngọt（甘い）に bùi（香ばしい）が加わった感覚で味覚からの比喩表現であり，「人生の幸福，人生の喜び」を表すが，純粋な ngọt の評価ではない。

(14) ***Rạch*** một đường ***ngọt xớt***[12]. 「ナイフでスパッと***見事に切り裂いた***。」

(15) Bài này mà ***dịch*** ra tiếng Việt thì ***ngọt xớt***. 「この文章なら***たやすく***ベトナム語に***訳せる***。」(川本 編 2013: 1146)

他に，cú cắt bóng ngọt（見事なボールカット）等の用例もある。この意味合いは日本語では用いられない。物事が問題なく進むというニュアンスを表すためには日本語では「見事な」,「スムーズに」,「うまく」等の表現が用いられる。これはI.2.5–cで述べたように，ここで「甘い」を用いると「努力や苦労をかけずに簡単にできてしまう」という意味合いを表してしまい，相応しくない。

以上の分析結果から，ベトナム語のNgọtと日本語の「甘い」は味覚から「甘い香り」「甘い香水の匂い」等のように嗅覚に広がることがわかった。これは正に「味覚から「甘い」を借りた共感覚表現である。そもそも，嗅覚は味覚と密接に結びついた感覚である」(瀬戸 編著 2003: 189）からである。その上，ベトナム語のNgọtも日本語の「甘い」もプラス評価を示すとともに，マイナス評価も示す。ベトナム語においては，Ngọtはプラス評価を示すことが多いが，I.2.1に分類されるgiọng nói ngọt lừ（(気持ちが悪いくらい）甘ったるい声），lời ngon tiếng ngọt（口先巧みな甘言）等のように，人を騙したり誘惑したりする意味を表す時には，マイナス評価を示す。Mật ngọt（甘い蜜）もmật ngọt chết ruồi（甘い蜜がハエを殺す → 甘い言葉に騙される）等のようにマイナス評価に用いられることが多い。因みに，ngọt ngàoはプラス評価を表すことが殆どである。一方，日本語においては,「甘い香り」,「甘い声」,「甘い風景」,「甘いキス」等は嗅覚，聴覚，視覚，触覚への比喩転用はプラス評価を示すことが殆どである一方で日本語の定義④⑤⑥で見られる「生徒に甘い先生」,「詰めが甘い」,「ネジが甘い」等は*物事の様態がほぐれた，緩んだ状態*[13]を表したり，*人の行為が緩く，厳しさを欠く状態*[14]を表すことが多く，マイナス評価を示す。*ものが緩んだ状態の「甘い」*について瀬戸（編著 2003）は次のように述べる。「(省略）ものの状態が不完全で，余裕を残した中途半端な状態，最後まで十分詰め切れていない状態を意味する。(省略）甘い味覚は，身体を弛緩させる。これがメタファーとして再解釈されると，味覚以外の別な領域を表すのに用いられる。つまり，味覚によって起こる弛緩状態と，ものの弛緩状態の間に対応が成り立つ。「ネジが甘い」などの緩んだ状態を表すのに「甘い」が用いられる理由は，身体的な意味をベースにしないかぎり考えにくいだろう。」(pp. 195–196）また，*人の行為が緩んで厳しさを欠く「甘い」*については次のように述べる。「(省略）体がリラックスし，弛緩状態にある身体的な緩みと，人の行為が完全に遂行されずに緩み部分を残した状態の間に類似性が見出され，味覚の「甘い」が抽象的な意味に適用される。」(pp. 197–198）つまり，ものの状態であれ，人の行為の様態であれ，それが「甘い」ことで心が「和み」,

12) <http://tratu.soha.vn/dict/vn_vn/Ng%E1%BB%8Dt_x%E1%BB%9Bt>

13) 瀬戸（編著 2003: 204）に使われるフレーズ。

14) 前述注13）を参照。

「緩み」が出て，事の処理が「緩く」なってしまうのでマイナス評価を示すのである[15)]。

II. Mặn からい（塩気）

II.1 Mặn の定義

Mặn とその感覚表現への転用について考察する前に，これに相当する語彙について少し述べておこう。

冨田（2013）は「塩のカラさも，唐辛子のカラさも，わさびのカラさも表現として区別する必要さえ感じなかったのでしょう。」と指摘し，日本人はこれらを全部ひっくるめて「からい」と言うが，ベトナム人は「塩カラさ」を Mặn,「唐辛子のカラさ」を Cay,「わさびのカラさ」を Hăng（鼻にツンときた）と区別して言うと述べた（p.33）。ここでは，塩気について言う「からい」，つまり Mặn を中心に考察する。

Mặn はベトナム語辞典で次のように定義される（用例は一部省略）。*①海の塩の味を持つ。例 : Nước mặn（海水），Khử chua và mặn cho đất（土の酸性を抑え，塩分を取り除く），Kiêng ăn mặn（塩辛い料理を避ける）。②普通より塩味がまさっている（料理），「薄味」と反した意味。例 : Canh mặn khó ăn（スープが塩辛くて食べにくい），Đời cha ăn mặn, đời con khát nước（《諺》親の代に塩辛い物を食べると子供の代にのどがかわく；親の因果は子に報い）。③（食事）一般的に，肉や魚など動物の肉からできた料理；菜食と反した意味。例 : Tiệc mặn（肉食中心のパーティー）[16)]，Ăn mặn nói ngay còn hơn ăn chay nói dối（《諺》精進料理を食べて嘘を付くより塩辛い物を食べて正直に言おう；本当のことをありのままに話す）。④誠意且つ熱心なところがある。例 : Mặn tình（情が濃い），Mặn chuyện（親密な話），Không mặn mua, nên trả rẻ（買う気にならず値段を安目に提示する）。*（資料 A: 618）

ところで，ベトナム語の Mặn は日本語の「からい」の中でも「塩からい / しょっぱい」に当たるが，この「塩からい / しょっぱい」は極端に塩味が強い時にのみ用いられる語であり，mặn と比較することは適切ではない。「甘い」の対は「からい」であるため，「からい」全般と比較する必要があろう。

「からい」[17)]は次のように定義される。（用例は一部省略）。*①激しく舌を刺激するような味である。㋐唐がらし・わさび・しょうがなどの味にいう。ひりひりする。（省略）㋑（「鹹い」と書く）塩味が強い。しおからい。しょっぱい。（省略）㋒酸味が強い。すっぱい。（省略）㋓こくがあって甘味の少ない酒の味にいう。（省略）②心身に強い刺激を与える状態，または心身に強く感ずるさまである。㋐やり方や仕打ちがきびしくひどい。過酷である。容赦がない。（省*

15）因みに，「甘える」，「甘やかす」もマイナス評価を示すことは言うまでもない。

16）「正式の食事を主とする宴会，豪華な招宴」と訳されることもある（川本 編 2013: 1484）が，定義③で定められる Mặn は「菜食料理（精進料理）」，つまり「Tiệc ngọt」（子供向けのパーティー等お菓子を中心とするパーティー）ではないことを強調するものであるため，この訳はあまり適切ではないと思われる。

17）「辛い」と記載される（資料 B: 593）が，誤解を避けるため本論考では「からい」と記載することにする。以下同様。

略）「点が＿・い」「自分に＿・い」㋑つらい。せつない。苦しい。悲痛である。（省略）「＿・い目を見る」㋒いやだ。気に染まない。（省略）㋓あやうい。あぶない。「＿・くも難を逃れた」㋔（連用形を副詞的に使って）必死に。懸命に。（省略）㋕（連用形を副詞的に使って）大変ひどく。（資料 B: 593）

以上の両言語の定義を比較してみると，ベトナム語における Mặn の定義のうち，定義①は日本語の定義①と一部分当たり，Khử chua và mặn cho đất（土の酸性を抑え，塩分を取り除く）等の例で用いられる「Mặn」は日本語に翻訳してみれば「除塩」,「塩抜き」,「塩気を取り除く」等の言い方になる。定義②は日本語の定義①―㋑とぴったり合っており，物理的な意味である。定義③は日本語とは共通しない。定義④も定義③と同様に日本語とは共通せず，mặn tình, mặn chuyện 等の例には「濃い」,「親密な」等の語の方が適切である。また，Không mặn mua, nên trả rẻ の例にある mặn は行為を行う主体の意思を表すので，ここも「買う気」（ý muốn mua）等の訳の方が適切と思われる。

逆に日本語の定義を分析してみれば,「からい」に関する定義のうち，定義①㋐は上記冨田（2013）が指摘した Cay（唐がらし，しょうが），Hăng（わさび）のことである。㋑はここで考察する Mặn に当たる。㋒は下記 III. 1 で考察する Chua の定義①に当たり，物理的な意味である。㋓は物理的な意味を表し，上で述べた唐がらし，しょうが等のカラさを表す Cay に当たる。定義②㋐はちょうど上記 I. 1 で考察した Ngọt（甘い）の日本語の定義④の対義となっており,「点が辛い」「自分に辛い」はベトナム語ではそれぞれ Chấm・điểm・thật・nghiêm（つける・点・本当に・厳しい），Nghiêm khắc・với・chính mình（厳しい・に・自分自身）等と翻訳されるであろう。㋑はベトナム語では đau khổ, cực khổ（辛い，苦しい）と言い，下記 IV. 1 にある日本語の定義③に当たるのではないだろうか。㋒も IV. 1 にある日本語の定義②に当たるであろう。㋓㋔㋕は本論考で考察する味覚語彙のどれにも当たらず，ベトナム語ではそれぞれ nguy hiểm 又はそれをひっくり返した hiểm nguy, hết sức（力を尽くす）又は cố gắng（一生懸命に），cực kỳ vất vả/khó khăn（非常に困難に）等に言い換える。

II.2　Mặn とその感覚表現への転用の方向性

Nguyễn（2014）はベトナム語における Mặn は 1) 視覚，2) 精神的感受性（感情的表現）と，3) 行動的表現[18]へ転用されると主張する（Nguyễn 2014: 74–79）。しかし，以下で示すように，Mặn は以上の 3 つの領域への転用の他に*聴覚*への転用も確認できる。以下で詳しく見てみたい。

II.2.1　視覚への転用

Mặn が視覚へ転用される際の意味として認知されるのは,「**見る人に好意をもたらすような女性の魅力的な美しさ**」である。通常 vẻ ngoài（外見），nhan sắc（容貌），vẻ đẹp（美貌），làn da 又は nước da（肌），cái duyên（魅力）等女性の美容を語る語と共に用いられることが多いように思

18）この場合，否定文で用いられることが多いと主張している。（Nguyễn 2014: 78）

われる。

(16) Đó là Mỹ Hạnh, được chính thức coi là kế toán trưởng Công ti. Không xinh lắm nhưng ***mặn mà***.「それは正式に会社のチーフ・アカウンタントと見なされるミー・ハインさんで，あまり美しくないが***魅力的な女性***だ。」(Vietlex)

(17) Tôi thấy cô là người có duyên. Một ***cái duyên mặn mà*** với đôi hàm răng đen nhánh. 「彼女は魅力のある女性だと思う。黒くて美しく光っている歯を持つ***魅惑的***な女性だ。」(Vietlex)

他に，vẻ đẹp mặn nồng（魅力的な容貌）等の言い方もある。日本語ではこの意味合いで用いることはなく，以上の用例等で見られるように，「魅力的」や「魅惑的」等と訳しておく。

II.2.2　精神的感受性（感情的表現）への転用

Mặn が感情的表現へ転用される際の意味として認知されるのは，「**(愛情・情義で) 固く結ばれることや情が深い，親密な関係**」である。

(18) Từ đó, ***tình nghĩa*** qua lại giữa hai người càng thêm ***mặn mà***.「それ以来，二人の***義理と人情***はますます***厚くなった***。」(Vietlex)

(19) ***Tình yêu mặn mà***　***「情熱的な愛情」***（川本 編 2013: 1003）

他に，yêu nhau một cách mặn nồng（深く愛し合っている），tình cảm mặn ngọt（情が濃い）等の言い方もある。日本語ではこの意味合いで用いることはなく，以上の用例等で見られるように，「情が濃い」「情熱的な」「深く愛する」等に言い換える。

II.2.3　行動的表現への転用

Mặn が行動的表現へ転用される際の意味として認知されるのは，「**行動に見る熱心さ，熱烈さ**」である。次のような用例で見られる。

(20) Không ***mặn mà bắt chuyện***.「***声をかけるつもり***はない。」(資料 A: 619)

他に，không tỏ ra mặn mòi（興味を示さない）等の用例もある。日本語ではこの意味合いで用いることはなく，以上の用例等で見られるように，「興味を示す」や「やる気」等に言い換える。

II.2.4　聴覚への転用

Mặn が聴覚へ転用される際の意味として認知されるのは，「**魅力的な，引きつけられて拒めない言葉や情が深い言葉**」である。次のような用例で見られる。

(21) ***Ăn nói mặn mà***, có duyên 「***耳に心地よく受け入れやすい***魅力的な***話し方***」[19]（資料 A: 619）

日本語ではこの意味合いで用いることはなく，以上の用例等で見られるように，「耳に心地よく受け入れやすい」等に言い換える。

一方，日本語における「からい」は性格的表現と視覚へも転用される。この場合，「からい」ではなく，「しょっぱい」が用いられるのが注目すべきところである。

19)「Lời nói mặn mà」は「甘い言葉」と訳されることもある（川本 編 2013: 1003）が，「甘い言葉」はマイナス評価の印象があり適切な訳とは言えない。

―***しょっぱいおやじ***がまた来た。（瀬戸 編著 2003: 236）
―そんな***しょっぱい顔***をするな。（瀬戸 編著 2003: 236）

また，以下で考察する「辛い判定」「からい目に遭う」や「辛い教官」はI.2で考察した「甘い」とちょうど正反対という関係にあり，「*物事の様態がほぐれていない，緩んでいない状態*」を表す又は，「*人の行為が緩くない，厳しさを欠かない状態*」を表すことが多いように思える。

―あの***判定***は***辛すぎる***。（瀬戸 編著 2003: 231）
―なぜかあの自動車学校には，採点の***辛い教官***が多い。（瀬戸 編著 2003: 231）
―げんに私が此の列車のため，ひどく***からい目に遭はされた***。（太宰治「列車」）（瀬戸 編著 2003: 231）

「判定の採点が「辛い」のは，「評価の基準が厳しい」ことを示す。「評価の基準が厳しい」という意味は，ほかの味覚表現に見られず，「からい」しかない。判定や採点の結果を知って苦い思いをすることはあっても，判定や採点そのものについて「苦い」とは言わない。また，逆の「評価の基準が厳しくない」状況は，「甘い」で表される。（省略）「甘い」と「からい」が，ここでは対立関係にある。（瀬戸 編著 2003: 231）が述べたように，「判定は辛い」や「辛い教官」に用いられる「からい」は評価する際の厳しさを表し，ベトナム語では nghiêm khắc（（規律や道義に照らして）厳しい，厳格である），khắt khe（苛酷な，厳しい），gắt/gắt gao（厳しい，激しい，ひどい，容赦のない，痛烈な）等に言い換える。また，「からい目に遭う」等の言い方に用いられる「からい」は「大変さ」「つらさ」「苦しさ」を表すため，IV.1で述べる日本語の定義③に当たり，「苦い」と同じ用い方を持つと言えよう。

「「しょっぱい」は「不快な感じを表す」と解釈されることもある。「しょっぱいおやじ」では，不快感が「けちな」に傾く。」（瀬戸 編著 2003: 236）このように，「しょっぱい顔」又は「しょっぱいおやじ」は困ったり不愉快だったりする感情を表すが，もしベトナム語に翻訳すれば，「mặn」は対応せずに，「keo kiệt（けちな）」，「bủn xỉn（細かい物まで物惜しみをする，しみったれた，みみっちい）」，「nhăn nhó（不快な表情になる）」，「khổ sở 又は khốn khổ（つらい苦しみ）」，「khó chịu 又は khó ưa（性格などが）我慢がならない，我慢ならなくさせる，うんざりする」等があてはまるであろう。

以上の分析結果から，ベトナム語の Mặn と日本語の「からい」は物理的に同じ「カラさ」を表すことがわかった。そして，ベトナム語の Mặn は視覚，精神的感受性（感情的表現），行動的表現，聴覚へ，日本語の「からい」は，精神的感受性（性格的表現）と視覚へ広がる。また，ベトナム語の Mặn はプラス評価のみを示すのに対し，日本語の「からい」はマイナス評価のみを示す。ベトナム語の Mặn は「からい」だけでなく，II.2.2で考察したように，「（情・義が）濃い」，つまり心又は気持ちが豊かな有様を表す意味に繋がるため，プラス評価を示すわけであろう。それと異なり，日本語の「からい」は元々塩，唐辛子，わさび等の極端な「からさ」を言い，マイナス評価を示す語だからであろう。「しょっぱい」はその典型である。

III．Chua 酸っぱい[20)]

III.1　Chua の定義

Chua はベトナム語辞典で次のように定義される（用例は一部省略）。*①レモンや酢のような味を持つ。例 : Dưa muối chua（酸っぱい漬物）。②酸を多く含む（植物の栽培用土）。例 : Đồng chua nước mặn（海水の塩分に侵される海岸沿いの荒地）（川本 編 2013: 561），Bón vôi để khử chua（酸を取り除くために石灰をまく）。③酢のような発酵した匂いがする。例 : Mùi chua bỗng rượu（酒粕の酸っぱい匂い）。④甲高く鋭くてうっとうしい（声）。例 : Giọng chua như mẻ（麹のような酸っぱい声），Nói chua（辛らつなことを言う）*。（資料 A: 180）

一方，日本語では，「酸っぱい」は次のように定義される。*酸い味がする。酸い。「＿・い梅干」「口を＿・くして注意する」。*（資料 B: 1507）

以上の両言語の定義を比較してみると，ベトナム語における Chua の定義のうち，定義①は日本語の定義の物理的な面（酸っぱい味）と共通する。定義②は日本語では「酸っぱい」は用いず「酸性度の高い土壌」「酸性度を中和する」等と言うであろう。定義③は日本語でも「酸っぱい匂い」等と言う。定義④は聴覚のみならず精神的な不快感への転用もあり，日本語の定義と共通する。「口を酸っぱくして注意する」は口が酸っぱくなるまで何度も何度も注意する，つまり注意される人に対して*精神的な不快感*を与えるのである。

III.2　Chua とその感覚表現への転用の方向性

Nguyễn（2014）はベトナム語における Chua は 1）聴覚，2）精神的感受性（具体的に，生活上の感受性と，性格的表現）へ転用されると主張する（Nguyễn 2014: 74–78）。本論考では，2）精神的感受性の下位分類に「精神的負担」を足した上で「嗅覚」への転用も補足する。また，Nguyễn（2014）は Chua の転用を考察する際，Chua cay（chua（酸っぱい）に cay（スパイシー）が加わった感覚で「辛酸，辛い境遇，鋭い，辛辣な」の意），Chua chát（chua に chát（渋い）が加わった感覚で，「とげがある，鋭くて冷たい，辛らつな」の意）をも考察したが，これらは 2 つの感覚語彙の組み合わせであり，総合的な意味合いを持つため，本論考では考察対象外とする。

III.2.1　聴覚への転用

Chua が聴覚へ転用される際の意味として認知されるのは，「**甲高く鋭くてうっとうしい声又は音**」であり，マイナス評価を示す。

（22）***Tiếng*** đàn bà ***chua loét***: Mới sáng ra đã ầm ĩ cả nhà!　「女性は***甲高くうっとうしい声***を出した：夜が明けたばかりなのにこんな家中騒ぎ立てられるなんて。」（Vietlex）

（23）***Giọng chua*** như mẻ.　「麹のような***酸っぱい声***。」（資料 A: 180）

Giọng chua lè, giọng chua lanh lảnh も「甲高過ぎてうっとうしい声」を表す。日本語ではこの

20）「酸い」が「甘い」「からい」「苦い」「渋い」と並んで基本型であろうが，現代語では「酸っぱい」が一般的である。

意味合いで用いることはなく，以上の用例等で見られるように「甲高すぎる声」「金切り声」等に言い換える。

III.2.2　精神的感受性への転用

III.2.2-a　生活上の感受性への転用

Chua が生活上の感受性へ転用される際の意味として認知されるのは，「**辛い境遇や苦悩**」であるが，僅かながら次のような用例がある。

(24) Chứng kiến và nếm trải, gặm nhấm và "thưởng thức" một lần nữa cái ***vị đời chua lòm***[21] đã từng sống. 「自分の目で見て，舌で確かめて，かみしめて，生きてきた一***生のつらさ***を再び‘味わう’。」(Nguyễn 2014: 77-78)

(25) ***Cảnh ngộ chua xót　「心を痛める境遇」***（資料 A: 181）

日本語ではこの意味合いで用いることはなく，以上の用例等で見られるように「つらい」等に言い換える。

III.2.2-b　性格的表現への転用

Chua が性格的表現へ転用される際の意味として認知されるのは，「**(女性が) 口やかましい，口うるさい，口数が多くて手に負えない**」である。次のような用例で見られる。

(26) ***Con người chua ngoa*** 「***毒舌の人***」（資料 A: 181）

日本語ではこの意味合いで用いることはなく，「とげがある」や「毒舌の」等に言い換える。

III.2.2-c　精神的負担への転用

Chua が精神的負担へ転用される際の意味として認知されるのは，「**きついことや相手にとって不都合のことを言って相手を不快にさせる**」であり，マイナス評価を示す。

(27) ***Lời nói chua ngoa.　「とげのある言葉。」***（資料 A: 181）

(28) ***Chơi chua.　「世の中を甘く見る。」***（川本 編 2003: 369）

この意味合いは日本語でも用いられ，上記日本語の定義にある用例の他，次のような用例がある。

—「実は神戸の新開地で常打ち芝居がある。そこへ一人欲しいので，コケ脅しに使うのですから，***役者は酸っぱくても***いいので。」（長谷川伸「耳を掻きつつ」）（瀬戸 編著 2003: 235）

—「馴染みでも無えのに，こんな***酸い（すっぱい）内幕***までぶちまけて談（はな）したのだ。」（小栗風葉『恋慕ながし』）（瀬戸 編著 2003: 235）

以上の用例で用いられる「酸っぱい」は「ものは，古くなって腐れば酸っぱくなる。ここからメタファーに転じて，「盛んな時期を過ぎてだめになった」「都合が悪い」を表す。」という見解もある。（瀬戸 編著 2003: 236）

---

21) 元々「不快感をもたらすほど酸っぱい匂いになる。例：*Quần áo mồ hôi chua lòm*（汗のしみこんだ酸い匂いの服）」という物理的な意味しか記載されていない。（資料 A: 181）

III.2.3　嗅覚への転用

Chua が嗅覚へ転用される際の意味として認知されるのは，「**汗の臭いが酸っぱくなり，不快感を与える**」であり，マイナス評価を示す。

(29) ***Mùi*** mồ hôi ***chua loét***.　「非常に***酸っぱい***汗の***臭い***」（資料 A: 181）

他に，chua lòm も「酸っぱいにおい」を表す。この意味合いは日本語でも用いられ，「酸っぱいニオイを放つ体臭」「体臭が酸っぱくなる」等の用例で見られる。

以上の分析結果から，ベトナム語の Chua と日本語の「酸っぱい」は物理的に同じ「酸っぱさ」を表すことがわかった。そして，ベトナム語における Chua も日本語における「酸っぱい」も Mùi mồ hôi chua loét と「酸っぱいニオイを放つ体臭」，Lời nói chua ngoa と「口を酸っぱくして注意する」等のように嗅覚と精神的負担まで広がる。しかし，ベトナム語の Chua は更に聴覚，生活上の感受性，性格的表現を表す比喩表現まで展開する。使用範囲が広かろうが，狭かろうが，Chua も「酸っぱい」もマイナス評価ばかりを示すところは両言語の共通点である。

IV．Đắng 苦い

IV.1　Đắng の定義

Đắng はベトナム語辞典で次のように定義される（用例は一部省略）。*①黄蓮（おうれん）や魚の胆（い）のような快くない味を持つ。例 : Đắng quá, không nuốt được（苦くて呑み込めない），Người ốm đắng miệng（病んでいる人は口が苦い），Đắng như bồ hòn（黄蓮（おうれん）のように苦い）。②（他の語彙との組み合わせに用いる）胸にしみるような精神的な苦しみを感じる。例 : Chết đắng cả người（全身が死ぬほどの気分になる），Đắng lòng（心の中の苦しみ）。*（資料 A: 295）

一方，日本語では，「苦い」は次のように定義される。*①舌に快くない味を感じる。「良薬は口に＿・し」。②面白くない。不愉快である。「＿・い顔」。③つらい。くるしい。「＿・い経験」。*（資料 B: 2120）

以上の両言語の定義を比較してみると，ベトナム語における Đắng の定義のうち，定義①は日本語の定義①に相当し，物理的な意味である。定義②は日本語の定義③に似ており，日本語の定義③にある用例をベトナム語に翻訳してみれば「Kinh nghiệm・cay・đắng」（経験・辛い・苦い）となるであろう。なお，Cay đắng は Cay（辛い）に Đắng（苦い）が加わった感覚で「つらい，痛ましい気持ち」を表す語であり，中国語の「辛苦」に当たる。

一方，日本語の定義②はベトナム語では用いられない。「苦い顔」はベトナム語で「Khuôn mặt・khó chịu」（顔（又は表情）・不愉快（又は不機嫌）），「Khuôn mặt・khó đăm đăm」（顔（又は表情）・苦々しい）等に言い換えられるであろう。

IV.2　Đắng とその感覚表現への転用の方向性

Nguyễn（2014）はベトナム語における Đắng は精神的感受性へ転用されると主張する（Nguyễn 2014: 76–77）が，本論考では嗅覚と視覚への転用も補足する。また，Nguyễn（2014）は Đắng の

転用を考察する際，Đắng cay/cay đắng（đắng（苦い）に cay（辛い）が加わった感覚で「つらい，痛ましい」の意），Đắng chát/chát đắng（đắng に chát（渋い）が加わった感覚で，「胸が引き裂かれるほどつらい」の意）をも考察したが，これらは 2 つの感覚語彙の組み合わせであり，総合的な意味合いを持つため，本論考では考察対象外とする。

IV.2.1　精神的感受性への転用

Đắng が精神的感受性へ転用される際の意味として認知されるのは，「**遠く離れた故郷への想い等に耐える精神的な苦しみ，やむを得ず受け入れる出来事に対する悔しい気持ち，ひどい損害や失敗**」である。

IV.2.1–a　精神的な苦しみへの転用

この種の転用には đắng ngắt, đắng nghét, đắng đót, đắng lòng が用いられることが多い。

（30）***Đắng lòng***.「***心の苦しみ***」（資料 A: 295）

（31）***Đắng đót đợi*** chồng ***mòn mỏi***, 30 năm sau thành “người thứ ba”[22]. 「30 年間***苦しみと共に***夫を***待ちわびた***挙げ句に「よその者」と見なされた。」

IV.2.1–b　やむを得ず受け入れる出来事に対する悔しい気持ちへの転用

この種の転用には đắng họng（苦い・喉），đắng miệng（苦い・口）又は ngậm đắng nuốt cay（苦味を口に含み辛いものを呑み込む → 人生の辛苦を経験する）が用いられることが多い。

（32）***Đắng miệng*** những bữa cơm ngày bão giá[23]. 「物価の高騰する昨今，食事代も***苦しい***。」

IV.2.1–c　ひどい損害や失敗への転用

この種の転用は何かの出来事の結果を表すものとして，quả（又は trái）đắng（実・苦い）が用いられることが多い。

（33）***Nhận quả đắng*** vì ‘săn’ chồng đại gia[24]. 「大家の旦那を「ハンティング」しようとしたため***酷い目に遭った***。」

上で考察した意味合いは日本語でも用いられ，「苦い経験」「苦い思い出」（瀬戸 編著 2003: 228）等の用例で見られる。

IV.2.2　嗅覚への転用

Đắng が嗅覚へ転用される際の意味として認知されるのは，「**苦味のある香り（におい）**」である。

（34）Tết trong tôi là mùi hương dịu dàng của cành mai vàng trước sân cửa, là ***mùi đăng đắng*** của những trái khổ qua xanh đang được mẹ dồn thịt…[25]「私にとって，テト[26]は家の門の前で咲いている黄

22）<http://giadinh.net.vn/gia-dinh/dang-dot-doi-chong-mon-moi-30-nam-sau-thanh-nguoi-thu-ba-2016033011253027.htm>

23）<http://www.tinmoi.vn/Dang-mieng-nhung-bua-com-ngay-bao-gia-01508241.html>

24）<http://vietnamnet.vn/vn/doi-song/tam-su/tam-su-nhan-qua-dang-vi-san-chong-dai-gia-393984.html>

25）<http://www.muctim.com.vn/content/-/view/Ban-doc-viet/Mui-Tet-?article=2447416>

26）ベトナムの旧正月のこと。

色の梅の花の優しい香り，母が肉を詰めている青い苦瓜の***苦味のある香り***である。」

この意味合いは日本語でも用いられ，次のような用例で見られる。

―***苦い香り（臭い）***（瀬戸 編著 2003: 218）

―「ついさっきまで土の中にいたから，ぷーんとくわい独特の***にがみのある匂い***が，ぷしゅっと筋が入った亀裂から，湯気とともにただようまで，気ながに焼くのだ。」（中村 2004: 275）

IV.2.3 視覚への転用

Đắng が視覚へ転用される際の意味として認知されるのは，「**苦しみを隠すような微笑み**」等である。次のような用例で見られる。

（35）“Có hề gì đâu, miễn mình thấy vui là được, miễn người ta còn ở bên cạnh mình là được” – một lesbian nói với tôi như thế, nói rồi cười, ***nụ cười đắng đót***[27]. 「「大丈夫さ。自分がそれでいいんだから。その人は自分のそばにいてくれれば十分だ。」あるレズビアンはそのように言ってから微笑んだ。***苦い微笑み***だった。」

この意味合いは日本語でも用いられ，次のような用例で見られる。

―第 2 段落の最後において，著者はいささか***苦い微笑み***を浮かべて，詩はそれほどすぐれたものであるのに，これを読む人は少ないという事実を「悲しくも意識しながら」指摘するのである[28]。

―***苦い光景***。（瀬戸 編著 2003: 218）

ここで注目したいのは，同じ視覚への転用であるが，*「**苦味走った良い男**」は男の顔つきがひきしまってりりしいさま*（資料 B: 2121）を表し，プラス評価を示すのに対し，*「**苦々しい顔つき**」「**にがりきった顔**」*は言葉どおりにマイナス評価を示す。

以上の分析結果から，ベトナム語の Đắng と日本語の「苦い」は物理的に同じ「苦味」を表すと同時に，*精神的感受性*，*嗅覚*と*視覚*に広がるところが共通しているが，精神的感受性への転用については，日本語では大体「苦い経験」「苦い思い出」のみ言うのに対し，ベトナム語では*遠く離れた故郷への想い等に耐える精神的な苦しみ，やむを得ず受け入れる出来事に対する悔しい気持ち，ひどい損害や失敗*へと様々な精神的感受性の有様を表すのに用いられることがわかった。また，ベトナム語の Đắng はマイナス評価ばかりを示す。これは「Đắng（苦い）は好まれない味であるため，đau khổ（悩む，悩まされる，苦しむ，（心の）痛手，苦痛）や bi thương（悲しい，痛ましい）といったニュアンスを連想させてくれる」（Ngô 2013: 47）に起因している。これと異なり，日本語の「苦い」はマイナス評価を示すのがほとんどであるが，*「苦味走った良い男」*等のように珍しいことであるがプラス評価を示すこともある。

27）<http://www.baomoi.com/gia-les-di-tan-gai-ky-2-the-gioi-tien-doi-tinh/c/12523212.epi>

28）小林章夫（2000）*『英文読解力をつける』*，ベル出版，p.96.

3．結論

本論考で考察した味覚語彙 Ngọt（甘い），Mặn（からい（塩気）），Chua（酸っぱい）と Cay（辛い）はそのすべてが味覚を出発点として，心理領域へと意味を広げていったことが証明された。食生活に根ざす具体的な経験を基にして，抽象的な領域へと意味が拡張していくのだが，越日語間で，それぞれの語が覆う意味領域が微妙にずれるのは，それぞれの言語の成り立ちに影響を及ぼした歴史的，文化的要因に負っている。先ず，ベトナム語の Ngọt と日本語の「甘い」は物理的に同じ「甘さ」を表すが，Ngọt は更に*聴覚，嗅覚，視覚，触覚，精神的感受性と行動的表現*へ，「甘い」は*嗅覚，聴覚，視覚，触覚*へと広がるが，どちらにおいてもプラス評価も示せば，マイナス評価も示す。次に，ベトナム語の Mặn と日本語の「からい（塩気）」は物理的に同じ「カラさ」を表すが，Mặn は更に*視覚，精神的感受性（感情的表現），行動的表現と聴覚*へ，「からい（塩気）」は*精神的感受性（性格的表現）と視覚*へと広がる。ベトナム語の Mặn は「（情・義等が）濃い」という意味にも繋がるため，プラス評価のみを示すのに対し，日本語の「からい（塩気）」は抽象的な領域においてもマイナス評価を示す。そして，ベトナム語の Chua と日本語の「酸っぱい」は物理的に同じ「酸っぱさ」を表すが，Chua は更に*聴覚，生活上の感受性，性格的表現，精神的負担と嗅覚*へ，日本語の「酸っぱい」は*精神的負担と嗅覚*へと広がる。この違いを抱えながらどちらもマイナス評価のみを示すところは両言語の共通点である。最後に，ベトナム語の Đắng と日本語の「苦い」は物理的に同じ「苦味」を表すと同時に*精神的感受性，嗅覚と視覚*へと広がるところが共通するが，精神的感受性においては，日本語の「苦い」は大体「苦い経験」「苦い思い出」だけを言うのに用いられるのに対し，Đắng は*遠く離れた故郷への想い等に耐える精神的な苦しみ，やむを得ず受け入れる出来事に対する悔しい気持ち，ひどい損害や失敗*へと様々な精神的感受性の有様を表すのに用いられる。また，ベトナム語の Đắng がマイナス評価ばかりを示すのと異なり，日本語の「苦い」はマイナス評価を示すのがほとんどであるが，*「苦味走った良い男」*等のようにプラス評価を示すこともある。ベトナム語の Chua も Đắng も，そして日本語の「酸っぱい」も「苦い」も味覚領域のみならず，抽象的な領域においてもマイナス評価を示し，Chua（酸っぱい）は Chát（渋い）と，Đắng（苦い）は Cay（スパイシー）と組み合わされて相乗効果を発揮している。

参考文献

Đào, Thản（1973）*Ngọt（ghi chép tư liệu）*［Ngọt（甘い）―その研究ノート］，Ngôn ngữ 1973，1 号，pp. 61–64.

日景敏夫（2009）*ことばの意味構造*，現代図書。

新村 出（編）（2008）*広辞苑*（第六版），岩波書店。

川本邦衛（編）（2011）*Từ điển tường giải Việt Nhật*［詳解ベトナム語辞典］，Nxb. Taishukan.

日下部裕子・和田有史（2011）*「第四章　味とにおいの相互作用」*『味わいの認知科学―舌の先から脳の向こうまで』，勁草書房，pp. 71–96.

宮本マラシー（2013）*「味を表すタイ語表現における比喩」*『大阪大学言語文化研究』第39号，大阪大学，大阪，pp. 125–148.

中村明（2004）*「臭覚」「味覚」「触覚」*『感覚表現辞典』，東京堂出版，pp. 259–316.

Ngô, Minh Nguyệt（2013）*Đặc điểm cấu tạo, ngữ nghĩa và hàm ý văn hóa của từ chỉ mùi vị trong tiếng Hán hiện đại*［現代中国語における味覚語彙及び嗅覚語彙の構造特性，意味及び文化的含意］，ハノイ国家大学科学雑誌外国研究，Vol. 29，3 号，pp. 44–53.

Nguyễn, Ngọc Tư（2008）*Cánh đồng bất tận*［果てしない平原］，Nxb.Trẻ, pp. 145–153

Nguyễn, Thị Huyền（2013）*Từ NGỌT tiếng Việt trong sự so sánh với đơn vị tương đương tiếng Anh*［ベトナム語における Ngọt（甘い）と英語における sweet とそれに相当する語彙や表現の比較］，Từ điển học và Bách khoa thư, 4 号（2013 年 7 月）。

Nguyễn, Thị Huyền（2014）*Phương thức chuyển nghĩa ẩn dụ của các từ chỉ vị trong tiếng Việt*［ベトナム語における味を表す語彙の比喩的転用の方向性］，Từ điển học và Bách khoa thư，3 号（2014 年 5 月）。

日本味と匂学会（2004）*味のなんでも小事典*，講談社。

瀬戸賢一，山本隆，楠見孝，澤井繁男，辻本智子，山口治彦，小山俊輔（2005）*「【方法 5】共感覚表現を利用せよ」*『味ことばの世界』，海鳴社，pp. 31–39.

瀬戸賢一（編著）（2003）*「七の皿　甘くてスウィート」*『ことばは味を超える』，海鳴社，pp. 186–214.

冨田健次（2013）*「日本人の五感表現とベトナム人」「「のどか」に「なごやか」に「おおらか」に日本人の心の叫び」*『フォーの国のことば』，春風社，pp. 32–35，164–170.

Viện ngôn ngữ học（2002）*Từ điển tiếng Việt*［ベトナム語辞典］，Nxb. Đà Nẵng.

Williams J. M.,（1976）*'Synaesthetic adjective: a possible law of semantic universals'*, "Language", 52: 2, pp. 461–477.